

会議録

会議の名称	平成28年度 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成28年12月7日（水） 午後7時から8時45分まで
開催場所	保谷庁舎 1階会議室
出席者	委員：赤澤委員長、廣瀬副委員長、有賀委員、岸上委員、小堀委員、 中平委員、西田委員、山本委員、藤江委員 (欠席委員：湯山委員) 事務局：林文化振興係長、工藤文化振興係主査
議題	1 平成28年度第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について 2 計画中期の取組実施報告（「対話による美術鑑賞」事業他）について 3 「平成28年度施策・事業評価（平成27年度分）」推進委員評価コメントについて 4 その他
会議資料の名称	1 平成28年度第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 2 計画中期の取組実施報告について 3 「平成28年度施策・事業評価（平成27年度分）」推進委員評価コメント事務局取りまとめ（案） <参考資料> ・武蔵野大学主催シンポジウム「地域への架け橋」チラシ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>《開会》</p> <p>○委員長： ・定足数と出席している委員を確認</p> <p>（配付資料について）</p> <p>○事務局： ・参考資料として、武蔵野大学通信教育部主催のシンポジウム「地域への架け橋」チラシを配付（廣瀬副委員長が参加予定）。</p> <p>○委員： ・地域社会を考えるに当たり、色々な分野からパネリストをとということで参加させていただく。話すテーマは「西東京の文化・芸術発展のために」を考えており、時間は15分程度である。予約不要で無料なので是非ご参加いただきたい。</p>	

議題2 計画中期の取組実施報告（「対話による美術鑑賞」事業他）について

- ・事務局から資料2に基づき説明

【実施プログラム②「対話による美術鑑賞」事業の推進】

（市民向け「対話による美術鑑賞」体験会）

○事務局：

- ・11月19日に、田無公民館主催で西東京わいわいネットが企画した「わいわいクッキングおしゃべり鑑賞会」にアートミーるが呼ばれて、対話による美術鑑賞を行った。
- ・おしゃべり美術鑑賞会inくいしんぼのさんぽ市では、1人の男の子が、開始直後から終了間近までアートミーるブースで楽しんでいたという報告を受けている。対話による美術鑑賞は、子どもにとってそれだけ惹きつける魅力があると改めて感じさせられた。

（アートミーる研修）

○事務局：

- ・1期生と2期生は、合同のフォローアップ研修を2回実施し、3期生は8回目の研修が終了した。

（小学校における「対話による美術鑑賞」事業の実施）

○事務局：

- ・小学校では、9校目の中原小で実施したところであり、今年は後、12月8日に住吉小で、12月13日、14日に栄小で実施予定である。

（「対話による美術鑑賞」実施に向けた調整会議）

○事務局：

- ・11月30日に実施し、小学校区工部会担当校長に次年度の実施校の実施月の調整を依頼したところである。

【実施プログラム④文化ボランティアの育成】

（会場係ボランティア）

○事務局：

- ・会場係ボランティアの応募者は、最終的に11人（女性10人、男性1人）となった。
- ・新規応募者に対して、12月3日に説明会及び施設見学会を行った。

議題3 「平成28年度施策・事業評価（平成27年度分）」推進委員評価コメントについて

- ・事務局から資料3に基づき説明

○事務局：

- ・推進委員の皆様から様々なご意見をいただいたので、事務局案として取りまとめた。事前に資料を送付できなかったのが、この場でご覧いただき、追加・修正等のご意見をいただきたい。

○委員長：

- ・ここで少し時間を取り、委員の皆様には事務局取りまとめ案をご覧いただき、施策⑧

から委員の皆様のご意見をいただきたい。

(施策番号⑨ 文化財の保存・継承と活用)

○各委員：

- ・図書館の地方版の新聞切抜きは、とても貴重な資料となるので継続すべきであり、その電子化もとても有効である。
- ・地域文化の一覧などは図書館で作成しているのか？

○事務局：

- ・過去の文献資料などはあるが、一覧は作成していないと思う。

○委員：

- ・市ホームページなどで西東京市の伝統文化を公開すると、市民からこのような伝統文化もあるというような意見も出てくると思う。

(施策番号⑩ 地域の伝統文化についての検討)

○委員：

- ・西東京市の伝統文化はどのようなものがあるのか？

○事務局：

- ・どんど焼き、保谷囃、田無ばやし、田無ぼうち唄などがある。
- ・田無ぼうち唄は、平成27年度の市民文化祭オープニングイベントで披露された。昔西東京市では、麦がたくさん作られ、麦の収穫の一連の作業に棒打ちというものがあり、そのときに唄う唄がぼうち唄として今も残っている。

○委員：

- ・多くの市民は西東京市にどのような伝統文化があるか知らないなので、どこかの施設に展示して市民に広げるといいと思う。

(施策番号⑪ 文化芸術を支える人材の育成と仕組みづくり)

○委員：

- ・会場係ボランティアを必要としている文化活動団体はあるのか？

○事務局：

- ・把握はしていない。現在、会場係ボランティアの活動は、原則、保谷こもればホール主催の公演に限っているが、市民の文化活動団体からの派遣依頼などに対応するための仕組みは検討していきたい。

○各委員：

- ・合唱団はボランティアを相互に行っている。
- ・1公演でボランティアは10人ぐらい必要であり、主催者がお昼を用意するなどの対応をしている。
- ・会場係ボランティアが増えてきたら、ベテランのボランティアを民間の公演へ派遣してもいいと思う。

- ・行政がボランティアを抱えるべきではないと考えている。主催者が雇用して賃金を払えばいいと思うし、魅力的であれば自主的に集まるはずである。
- ・ボランティアが活動するにはある程度知識が必要なので、行政が指導の役割を果たすことは必要だと思う。
- ・以前、市からボランティアの管理運営を文化芸術振興会で行って見たらどうかと打診されたことがある。
- ・昨年度の評価コメントにある「「対話による美術鑑賞」事業を～アートミーアが自主的な運営ができるように努めるべきである。」は、まだ達成されていないと思うので今回も入れるべきである。

(施策番号⑫ 文化芸術を支える人材の活用)

○各委員：

- ・自主制作映画コンペティションの審査員もボランティアで行っているが、これは育成すべきボランティアであると思う。
- ・会場係ボランティアとは異なった特殊な技術が必要なボランティアを育成する必要があると思う。
- ・地域の文化として、市民が手軽にボランティアをできる環境づくりは必要であり、ボランティアの存在意義もあると思う。
- ・行政は、文化ボランティア等社会貢献に対して、温かい眼を持つ必要があると思う。
- ・アートミーアはしっかりと研修を受けており、文化ボランティアの育成といえるが、会場係ボランティアは、裏方的要素が強いので、文化ボランティアではないと思う。
- ・雑用等はボランティアではなく主催者がすべきである。
- ・強制ではなく、自発性がある、公演のお手伝いをしているというのであれば、文化ボランティアとみなしていいのでは。
- ・行政は、アートミーアの育成のように、ボランティア活動のきっかけづくりが大切である。
- ・実り多いボランティアを育成していくには自発性が大事であり、そこから文化ボランティアの可能性が広がっていくと思う。ボランティアの集め方などはいろいろあると思うが、行政の関わり方が大切であり、それを考えていく必要があると思う。

(施策番号⑬ 青少年や高齢者の文化芸術活動の支援)

○各委員：

- ・高齢者支援課はいろいろなサービスをしていると思う。高齢者クラブなどでも旅行案内や文化活動を支援している。
- ・児童青少年課の「SOUND STREET」は、どこでどのようなことを行ったのか？

○事務局：

- ・場所は把握していないが、内容は音楽とダンスである。

(施策番号⑭ 活動団体の交流機会の創出)

○各委員：

- ・評価コメント事務局取りまとめ案で、「イベントは成功しているが、参加団体相互の交流はあまりない」となっているが、交流なしにイベントはできないのもっと分かりやすく表現すべきである。

- ・会議とかを開催して団体を集めるよりは、一つのイベントで同じような団体が参加すれば、必然的に交流の場となると思う。
- ・市民文化祭では、出演団体以外の団体がお客様になればもっと盛り上がると思う。
- ・評価がAとなっているのは、文化祭が終わった後に振り返りなどを行って、団体相互の交流を図っているからだと思う。

(施策番号⑮ 国際文化交流の促進)

○各委員:

- ・評価コメント事務局取りまとめ案でいいと思う。
- ・自主制作映画コンペティションでは、今年度中国からの作品が入選した。これも国際文化交流の促進になると思う。
- ・西東京市は外国籍市民が約2%いて、市発行の刊行物を読めない場合が多いので、何らかの対応を検討する必要がある。

(施策番号⑯ 近隣市や姉妹都市・友好都市との交流促進)

○各委員:

- ・1市だとリソース(資源)が足りないので、近隣自治体との連携や北多摩5市での相互協力が必要である。
- ・15年映画上映に携わっているが、2011年以降動員がぐっと落ちている。深層心理で外に出たがらない人が多くなっていると思う。告知の現状確認が必要であると思う。ルネこだいらの情報誌が西東京市にも配布されているが、保谷こもれびホールのイベントニュースも近隣市に配布すると思う。
- ・保谷こもれびホールは向台町の市民より練馬からの利用者が多いと思うので、練馬との交流も考えていく必要があると思う。

(施策番号⑰ 市内関係機関等との連携)

○委員:

- ・市内事業者とは?

○事務局:

- ・民間事業者を指している。

○各委員:

- ・下野谷遺跡のアニメはエクラアニマルが制作したり、いこいーなはシンエイが制作したりしているのは、市内事業者との連携ということになると思う。
- ・シネマクラブも協働コミュニティ課と連携して映像を制作している。
- ・産業振興課のカードラリーも事業者との連携ということになると思う。
- ・FM西東京とJ:COMとも連携していると思う。
- ・連携を取りながら発展していく必要があると思う。

(施策番号⑱ 文化芸術分野の専門化との連携)

○各委員:

- ・評価コメント事務局取りまとめ案にある、「市内には芸術大学の卒業生が多数在住しているが、その技能を生かす機会に恵まれていない」というのは、知り合いで芸術大学

のピアノ科を卒業しても披露するチャンスがないと聞いている。

- ・その評価コメントの内容は、「地元アーティストの情報を積極的に集め、地元アーティストと連携した事業を推進していく必要がある」という部分とまとめるといいと思う。
- ・地元のアーティストはある程度リストアップしている。
- ・お店のシャッターに絵を描いたりしている芸術大学の友人がいる。西東京市でも古くなった壁を活用して学生に絵を描いてもらってもいいと思う。そのような機会をつくるのが、地域交流にもつながると思う。
- ・東伏見の北側にブルーに太陽が描かれている壁画がある。
- ・メキシコでは壁画を描くと減免になると聞いているので、西東京市でも何か考えてもいいのではと思う。
- ・シャッター街対策は、商店街発信で行うといいのではと思う。

(総論)

○委員：

- ・商工会、社会福祉協議会、子ども関係のネットワークなどいろいろな関係機関と連携してアートを発信していくという視点が必要である。

○事務局：

- ・今後の施策・事業評価の流れについては、本日委員の皆様からいただいた御意見を参考に、事務局で推進委員会評価コメントとして取りまとめ、メールで委員の皆様を送付し内容を御覧いただき、12月中に取りまとめたいと考えている。まだ意見がある委員の皆様もいらっしゃると思うのでメールで引き続き受け付けたい。

議 4 その他

○事務局：

- ・次回の開催については、2月以降に開催したいと考えている。日程については後日調整したい。

《閉会》